

九州支部沖縄分科会（那覇）との意見交換会

日時	⇒	2016年9月24日（土）	13:30~16:40	（途中休憩あり）
会場	⇒	産業支援センター	3階	308会議室
参加者	⇒	NACS九州支部沖縄分科会	：	7名
		石油連盟	：	1名（植松氏）
		環境委員会	：	4名



沖縄は、この委託事業において初めての意見交換の地であり、「災害」を主軸にしたワークショップでは、「台風」における備えについて活発に発言いただいた。

災害への認識については、台風災害に頻繁に遭遇しているため、自分の身は自分で守る意識が非常に高いのが特徴である。また台風や災害による警報・注意報が発令されたときは、自治体と住民は経験上培ってきた従来通りの対応をすることが第一で、自分たちの防災に対する意識や行動・慣習を形成していることがよくわかった。

その後、植松氏による現在の石油の状況や、災害時(特に地震)における活動内容や今後の対応策の説明を聞いた後の意見交換では、島嶼部における石油の輸送面におけるリスクヘッジ対策の質問があった。また、他の地域で日常的な備えとして実施していた、車のガソリタンクを常にいっぱいにしておくといった備えは実施しておらず、その代わりに、頻繁に発生する台風の対策として、台風の際は自動車が壊れないよう、大きなショッピングセンターの駐車場に避難させるなど、地域の特色を感じさせる内容の発言があった。

終了後に記載された振り返りシートでは、台風以外の防災意識の理解の必要性や、石油が身近なものだけに、改めて考えることができたなどの意見が見受けられた。